

ひがなかの子

令和 5年12月20日発行 第19号 文責 門田



* 2学期を終えるにあたって

長かった2学期(80日)もあと2日となり、各学級では、冬休みを前に学期の生活の振り返りと、授業の定着状況を確認する单元テストが順次行われています。

また、土曜日の個人面談では、担任から、今学期のお子様の学習や生活面での成長ぶりについて、説明があったことと思います。間もなく、通知表もお返ししますが、ご家庭でも、子どもたちの頑張りを、ぜひ誉めていただくと共に、お気づきの点やご相談ごとなどありましたら、何でもお気軽にご連絡ください。これから、本格的な冬の訪れに季節性インフルエンザ等の流向も心配されます。手洗い、うがい、睡眠など、できる予防に心がけ、皆が元気で、2学期の終業式を締めくくりたいと思います。



○今年もクリスマスツリー(もみの木)を飾りました

小規模多機能施設「えびす」の芝崎さんよりクリスマスツリー用として、今年も、立派なもみの木(四万十町大正産)をいただきました。後日、1・2年生の子どもたちが、飾り付けを行い、コロナ禍、しばらく途絶えていた「えびす」に入所されている方々との交流も行いました(ジングルベル等、一緒に歌いました)。ひ孫のようなかわいらしい子どもたちに目を細め元気をもらえると喜んでいただきました。もうすぐ、楽しみなクリスマス、今年もお休みの日と重なりました。皆さんは、当日どのように過ごしますか。芝崎さん、本当にありがとうございました!



○第15回四万十「つるの里祭り」に、5・6年生が参加しました



11月25日(土)、旧東中筋中学校で行われた「つるの里祭り」に、今年も、5・6年生が参加して、自分たちがこれまで学習してきた事をご家族の方やご来場の皆さんの前で発表しました。

5年生は、お米作り名人の上原さんをはじめ、民生児童委員さんや区長さんらのご協力で収穫したもち米を、2年振りに販売しました。心待ちにしていたくれた方も多く、1.5kg入り



155袋を、19分程で完売いたしました。声をあげての接客も良くてきていました。売り上げは、稲作に係る関係費用(ナーゴ水利費やもちつき代など)や子どもたちの教育活動に還元させていただきます。ご協力ありがとうございました。

6年生は、国交省やつるの里づくりの会の皆さんによる体験学習会(デコイの設置で新聞にも掲載)を受け、「高知県初の平面型デコイの4体の



作製やつるの生態、飛来の歴史、今年もつるが安心して越冬できるようにするためには、どのようなことに気を付ければよいか等をまとめた新聞を作成し、小さな折り鶴入りのキーホルダー50個程と一緒に会場の皆さんに配布をしました。現在、ナベヅル3羽が学校のすぐ近くで生活しており、来年1月には、鹿児島県出水市立

切通（きずし）小学校と「つるの分散化」などについてオンラインでの交流学習をする予定にしています。例年参加している「つるの里まつり」ですが、地域の皆さんとふれあった経験が自信となると同時に、子どもたちの思いや願いが次なる行動へとつながっていく事を期待しています。

○令和5年度舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）in 東中小

12月8日（金）、文化庁のうへの事業に本校が選ばれ、劇団「芸優座」（東京都）の17名の劇団員の方々が来校し、「最後の葉（The Last Leaf）～0.ヘンリー物語～」を中筋小学校の皆さんと共に鑑賞しました。

迫力ある演技や演出、細部までこだわって作られた舞台で、楽しいセリフには大きな笑い声が起り、真剣な場面には息をのんで集中するなど、笑いあり感動ありの鑑賞会となり、劇団の方々の生の舞台にみな夢中になりました。

この演劇公演までに、11月16日には事前ワークショップがあり、舞台芸術を鑑賞するポイントを教えてもらったり、俳優の皆さんが日々続けている発声・発音練習の仕方を「アイウエオの歌」を歌いながら学んだりしました。また、第2部では、立候補で出演を希望した児童による各場面の稽古もありました。当日、共演者の児童は、3校時の途中から、リハーサルを行い、開演の40分前には再び集合して、メイクをし衣装を身につけ、本番の舞台では皆それぞれの役を演じることができました。後日、劇団から送られてきたメールには、観劇のマナーが素晴らしかったことや、共演者の皆さんの集中力など、いずれをとっても本当に心に残る公演となったとのメッセージがありました。多くの子どもたちにとっては、「本物」の演劇を観るのは初めてのことあり、「本物」にふれることは、大きな学びと感動を味わうこととなります。学校として、こうした機会や出会いをこれからも少しでも増やしていきたいと考えています。



共演者：第一幕「腹ペコ姉妹」平田さん 川田さん
「帰途を急ぐ勤め人」宮崎さん
幕間「朗読者」上岡さん 宮崎さん
山本さん
第二幕 アパートの隣人たち
「老人役」下駄場さん 三木さん
「子供役」浜崎さん



共演者の5・6年生お礼状から抜粋

*私は、実際に劇をしてみて、声の大きさとか緊張してあまり大きな声は出せなかったけど、役者の皆さんは、とても聞きやすい大きな声で役を演じていたので、驚いたしすごいなと思いました。劇団の

皆さんの声からその時の気持ちが良く分かりました。私は、本当に自分にこの役ができるのか不安だったけど「大丈夫」とか「良かったよ」と言ってくれたので、とても安心しました。皆さんと一緒に劇ができて楽しかったです。平田さん

*・・・100人位の人前でやってみると、とても緊張しました。メイクや衣装を着てみて少し面白かったです。劇に出られたことが何より嬉しかったし、1回皆さんの劇を見たことがあって、とてもあこがれていたのが嬉しいです。放送も劇も終わった後にみんなに「上手やったで」「あれ、きらちゃんかしょったが!!」と褒めてもらいました。6年間の1つの思い出になりました。川田さん

*・・・、めったに見られないことですし、緊張したけれど、とても面白い体験でした。「勤め人」という役やらせていただいて、近くで見るととても凄い迫力でした。



それに一つ一つの言葉に感情がこもっている様な気がしました。二人が悲しみ合っている時に、笑いを入れるのが凄いです。皆笑っていて、演技や声の出し方が違っていて真似できないと思いました。ぼくもそんな風になりたいです。宮崎さん

